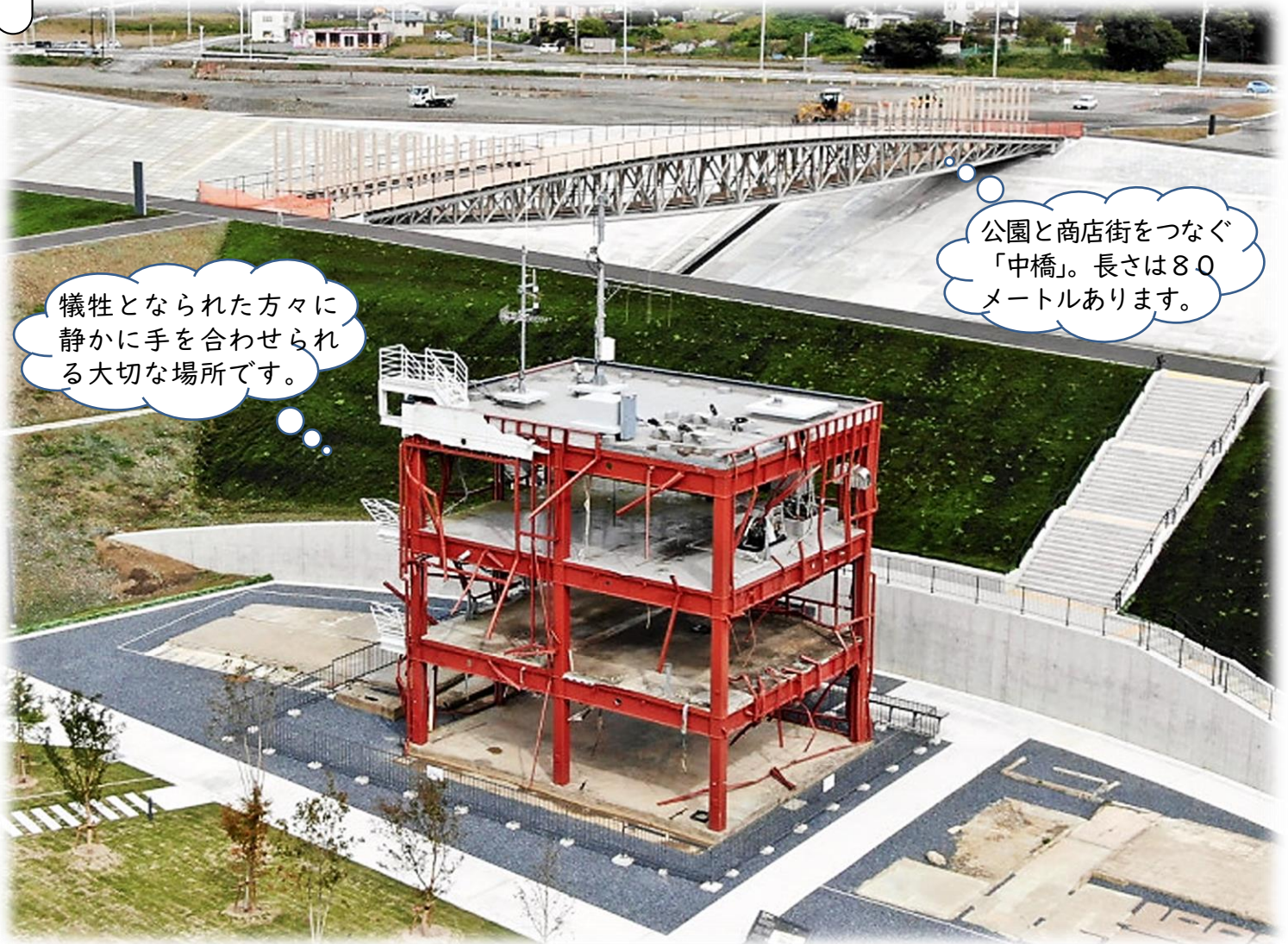


# 豊郷町隣保館だより

2021年2月26日発行 豊郷町隣保館 ☎0749-35-0611 No.203



公園と商店街をつなぐ「中橋」。長さは80メートルあります。

犠牲となられた方々に静かに手を合わせられる大切な場所です。

「過去を残しつつ、未来へつなぐ！」  
あの日、あのときを忘れない  
東日本大震災から十年

リアス式海岸特有の景観を持つ南三陸町。  
2011年3月11日、午後2時46分。  
あの日、あのとき、町には最大23・9メートルの津波が押し寄せ、壊滅的な被害を受けました。  
当時、3階建ての防災対策庁舎の屋上をさらに2メートルも上回る、とんでもない津波が襲いました。津波に飲み込まれるまで「高台に避難してください！」と最後までマイクを握り、必死に放送し続けた遠藤未希さんを含む町職員43名の尊い命が失われてしまいました。

町は、防災庁舎を含む周辺一帯を震災遺構として段階的に整備を進め、昨年10月12日「震災復興祈念公園」として全面開園となっています。

祈念公園には、犠牲になられた800人超えの名簿が収められたモニュメントが立つ「祈りの丘」や鉄骨がむき出しのままに、骨組みだけが残る旧町防災対策庁舎、その周りには遊歩道が整備され、献花台が置かれています。

また、新たに公園と川向こうの「さんさん商店街」をつなぐ「中橋」も完成。この橋には、南三陸産のスギが使われているとのこと。  
復興の歩みがまた一歩進んだのか、いや、ただ整備されただけで、人の想いはまた違うところにあるのかも知れません。

震災から10年、被災地の人々は、あの日を胸に未来へとつないでいく、そんな想いで変わりゆく街を見つめておられるのではないのでしょうか。